

講習会のお知らせ

■ 救急法基礎講習：1日間コース

心肺蘇生やAEDを用いた除細動などが学べます

11/27(金)・1/17(日)	日赤富山県支部	9:00~16:30
10/28(水)・2/24(水)	県総合体育センター	9:00~16:30

■ 水上安全法救助員養成講習Ⅰ

水の事故防止、泳ぎの基本と自己保全、救助の仕方、応急手当などが学べます

3月上旬(救急法基礎講習を事前に修了することが必要)	富山市民プール	9:00~17:00
----------------------------	---------	------------

■ 幼児安全法支援員養成講習：2日間コース

子どもに起こりやすい事故の予防と手当、子どもの病気への対応などが学べます

11/21(土)~22(日)・3/5(土)~6(日)	日赤富山県支部	9:00~17:00
----------------------------	---------	------------

■ 救急法救急員養成講習：2日間コース

急病の手当、けがの手当、搬送などが学べます

11/28(土)~29(日)	日赤富山県支部	9:00~16:30
10/29(木)~30(金)・2/25(木)~26(金)	県総合体育センター	9:00~16:30

■ 健康生活支援員養成講習：3日間コース

健康増進と高齢者に起こりやすい事故の予防・手当、日常生活の自立に向けた介護の知識と技術などが学べます

12/16(水)~18(金)	日赤富山県支部	10:00~15:00(最終日のみ16:00まで)
----------------	---------	---------------------------

● 資格継続研修

認定証が交付されてから2年経過した方が対象です。但し、認定証の有効期限が切れる前に受講してください。

受講されると、現在お持ちの認定証の有効期限が3年延長されます。

救急法 ▶ 12/12(土)・3/26(土)	水上安全法 ▶ 12/14(月)	日赤富山県支部
健康生活支援講習 ▶ 12/5(土)	幼児安全法 ▶ 12/6(日)	13:00~17:00

受講のお申し込みやお問い合わせ先 日本赤十字社富山県支部 事業推進課 TEL 076-441-4885 <http://www.toyama.jrc.or.jp/> (ホームページから申し込みができます)

街頭献血のお知らせ

- ★お昼時間は受付を休みます。
- ★日程は都合により変更することがあります。

10月

4日(日) ファボーレ	10:00~16:30
アル・プラザ小杉	10:00~16:00
8日(木) 大阪屋 呉羽店	9:30~16:30
11日(日) アビタ砺波店	9:00~16:00
高岡市立古府小学校	9:00~15:00
12日(月) 黒部市総合体育センター	10:00~15:30
15日(木) 富山市山田公民館	9:00~11:30
富山市八尾総合行政センター	13:30~16:00
17日(土) ありそドーム	9:30~16:00
18日(日) 新渡戸かに海鮮白えびまつり会場	8:30~15:30
24日(土) ファボーレ	10:00~16:30
25日(日) イオンモール高岡	10:00~16:30

11月

1日(日) ファボーレ	10:00~16:30
3日(火) ショッピング ア・ミュウ	10:00~16:00
8日(日) イオンモール高岡	10:00~16:30
15日(日) ファボーレ	10:00~16:30
PLANT-3	9:00~16:00
22日(日) イオンモール高岡	10:00~16:30
23日(月) ハッピータウン氷見店	10:00~16:00
29日(日) イオンモール高岡	10:00~16:30

12月

6日(日) ファボーレ	10:00~16:30
13日(日) イオンモール高岡	10:00~16:30
20日(日) アビタ富山東店	9:00~16:30
23日(水) ファボーレ	10:00~16:30
26日(土) イオンモール高岡	10:00~16:30
27日(日) ファボーレ	10:00~16:30
29日(火) イオンモール高岡	10:00~16:30
30日(水) イオンモール高岡	10:00~16:30

お問い合わせ先 富山県赤十字血液センター
TEL 076-451-5555 <http://www.toyama.bc.jrc.or.jp/>

赤十字救護看護師養成125年

日本赤十字社は、救護看護師を養成するため1886(明治19)年に博愛社病院(現日本赤十字社医療センター)を設立し、1889(明治22)年に「日本赤十字社看護婦養成規則」を制定しました。第1条(養成の目的)を「卒業後戦時ニ於テ患者ヲ看護セシムル用ニ供ス」として翌年より養成を開始し、今年日本赤十字社看護師養成125年目を迎えます。

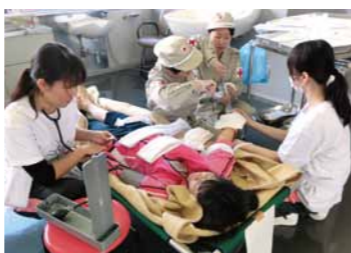
昭和初期の救護看護婦養成は入学資格を高等女学校卒、修業年限3年としていましたが、日華事変以後から終戦まで、戦時措置により修業年限を半年短縮した「甲種」、また、高等小学校卒も入学対象とした2年間の修業年限による「乙種」の救護看護婦の養成が行われました。

夏に放送されたドラマ「レッドクロス～女たちの赤紙～」は救護看護婦の半生を描き、その使命感と凛とした態度は、人道と平和について考えさせられる内容でした。ドラマでも印象的だった日本赤十字女性救護員の濃紺色の制服は、1899(明治32)年に定められ、看護衣とは別に重要な式典や貴人の送迎、勤務上の外出などに看護婦と生徒が着用していました。現在では、赤十字看護師OGである惣万佳代子さんが着用されたようにナイチンゲール記章授与式や卒業式などの重要な行事で着用しています。

現在、大学や看護学校などからなる赤十字の看護師養成施設は全国に24校あり、1895(明治28)年に5番目の日本赤十字準備看護婦養成所として誕生した現在の富山赤十字看護専門学校では、これまで3,300名余の卒業生を送り出してきました。時代は変わろうとも、人道・博愛の精神は変わりなく大切に育み続けられています。



伝統の制服です



災害医療について学びます

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

赤十字とやま

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

惣万佳代子さん(富山市・特定非営利法人このゆびとーまれ 理事長)に
第45回「フローレンス・ナイチンゲール記章」授与

顕著な功績があった看護師に与えられる世界最高の栄誉「フローレンス・ナイチンゲール記章」の授与式が8月5日(水)、日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下ご臨席のもと、東京都港区・東京プリンスホテルで行われ、今年受章者である惣万佳代子さんらに対し、皇后陛下御手ずから記章が授与されました。

赤十字国際委員会(スイス・ジュネーブ)から発表される同記章は、紛争や災害の被害者に対し献身的な活動を行ったり、公衆衛生と看護教育に貢献した看護師などに隔年で贈られています。今年、世界18カ国の36人(日本からは惣万さんを含む2人)が受章されました。

惣万さんは、1993(平成5)年に20年間勤務した富山赤十字病院を看護師仲間とともに退職し、高齢者だけでなく子どもや障がい者などの誰もが利用できるデイケアハウス「このゆびとーまれ」を全国に先

駆けて開設されました。この新たな福祉サービスは「富山型サービス」と呼ばれ、現在では全国1400カ所以上に開設されています。

授与式では、惣万さんの後輩である富山赤十字看護学校の学生32人がナイチンゲールの遺徳をしのぶキャンドルサービスを行い、4人目となる同校卒業生の受章に華を添えました。

後日、富山赤十字病院で開かれた報告会では、「授与式は、感激で胸がいっぱいになった」「たくさんの方に祝福してもらって、こんなに幸せなことはない」と話して下さいました。また、惣万さんと共に「このゆびとーまれ」を開設し、この日も一緒に来院された西村和美さん(富山市)は、「根本には、赤十字の教えがある」「これまで続けてきて良かった」「後輩にもこの受章を継いでほしい」と話して下さいました。



赤十字奉仕団50年

地域赤十字奉仕団は、「赤十字のボランティア活動を通じて地域社会に貢献したい」という思いを胸に県内全市町村で活躍しています。



5月10日(日)、高岡文化ホールにおいて、高岡南部丸美赤十字奉仕団の創立50周年記念式典が行われました。式典・講演会には、県内の奉仕団員仲間や地域の方などおよそ500名が集結し、50年の節目を祝いました。

県内で赤十字奉仕団が結成され始めたのは1949(昭和24)年のことでしたが、当時は自治会や婦人会との二枚看板が多く、人道を基本理念とする「赤十字の奉仕団」という意識は脆弱でした。そんな中、1964(昭和39)年に富山市の尚星赤十字奉仕団が、1967(昭和42)年には今回50周年の式典を行った丸美赤十字奉仕団(現在の高岡南部丸美赤十字奉仕団)が婦人会から独立し、新たな赤十字奉仕団として生まれ変わりました。

あれから50年。地域で活躍する53の赤十字奉仕団は、県内すべての市町村において3800人の方が活動を行っています。年々増加傾向にある男性団員は、東日本大震災や定年退職を機に入団しています。

奉仕団が行う活動は、ひとり暮らし高齢者宅への訪問や防災訓練などでの炊き出し、募金・献血の呼びかけ、社会福祉施設でのシート交換・障子張り・買い物補助・イベント手伝いなど、多岐にわたります。

また、地元の児童・生徒と一緒に活動では、青少年の健全育成にも努めています。

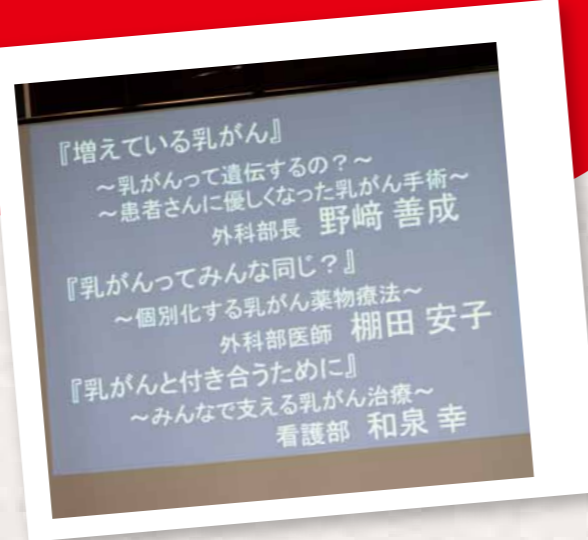


「防災訓練での炊き出しを任せられる人いないかな」「地域や施設の行事を手伝ってくれる人いないかな」「PTAの活動で何か出来ないかな」そんな地域からの声に、赤十字奉仕団は今後も応えていきたいと思えます。



がんと向き合う

私たちがみなさんのいのちと健康、尊厳を守ります。



● 7月15日(水)、TOYAMAキラリ ファーストバンク キラリホールにおいて、第9回公開健康講座「もっと知ってほしい!乳がんのこと」開催

女性の臓器別がん罹患率第1位である「乳がん」が今年のテーマです。罹患率第1位であることからその関心度は高く、今年の講座には、院内外から約200名が参加されました。

まず、野崎善成第3外科部長による講演では、乳がんの死亡率を低下させるために検診による早期発見・早期治療が重要であること、遺伝性乳がんの頻度とその検査法・対応法、乳がん手術について話されました。

また、棚田安子外科部長からは、がんの悪性度やHER2(がん遺伝子)の有無などの情報から薬物療法の内容を決定していることが話され、今後、さらに治療の細分化が進むことで個別の治療が可能になれば、治療成績の向上が期待できるとのことでした。

最後に、和泉幸看護師より、乳がん看護認定看護師の役割や患者さんとその家族へのサポート体制などに関する説明がありました。

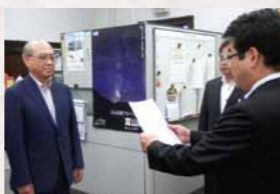
今回、「乳がん」というテーマに対し、多角的な視点で説明があったことについて、参加者からも「乳がんに対しての知識が深まった」「検診の大切さがわかった。周りの人にも勧めていきたい」などの声が寄せられました。

今後も、このような公開講座を通じて、がんの正しい知識についての情報を地域の皆さまへ提供していきたいと思えます。

● 県指定がん診療地域連携拠点病院

富山赤十字病院は、「富山県がん診療地域連携拠点病院」に指定されています。これは、富山県が独自で、国指定のがん診療連携拠点病院と同様の取り組みができ、今後推進すべきがん患者の在宅療養の普及支援が担える病院を指定しているものです。

これからも、人道・博愛の赤十字精神にもとづく良質で安全な医療の提供を地域の皆さまに行ってまいります。



夏の献血イベント

富山県赤十字血液センターでは、夏休みに合わせたイベントを開催しました。



● 8月2日(日)、東海北陸ブロック統一サマー献血キャンペーン2015

ファボーレを会場に展開された今年のキャンペーンは、富山県学生献血推進団体に富山大学のボランティアサークルMEETSが加わり、富山赤十字看護専門学校との学生らと共に協力を呼びかけました。

学生たちは、「君からの愛の花火を咲かせたれ」をキャッチコピーに献血者が減少しがちな夏場に献血推進を図るとともに、10代・20代の若年層に向けて献血に対する理解と協力を呼びかけ、献血の輪をひろげました。

会場では、浴衣姿の学生ボランティアが呼びかけと粗品の提供などを行い、118名の方に献血へのご協力をいただきました。

● 7月25日(土)、8月1日(土)、8月8日(土) 血液センター親子見学会

この見学会は、近年の高齢化社会の進展に伴う血液需要の増加に対し、10代・20代のいわゆる若年層の献血者が減少している中で、献血の未来を担う子どもたちに献血について理解してもらうため毎年開催しています。

6回目になる今年は、3日間で5回の見学会を行い、53組115名の県内小学5～6年生の親子に参加していただきました。

参加した子供たちからは、「16歳になったら献血したい」「血液のことがよくわかった」など大変うれしい感想が多数寄せられました。



お知らせ マリエ献血ルームが改装

北陸新幹線開通によるJR富山駅前のリニューアルに伴い、マリエ献血ルームも待合室を一新しました。オレンジ色のソファとLED照明で、暖かみのある雰囲気となっています。是非、マリエ献血ルームにお越しください。



里親里子研修 幼児安全法講習会を開催



子育てのヒントに繋がりますように

7月25日(土)、里親さんのスキルアップを目的に富山県里親支援機関事務局(日本赤十字社富山県支部受託 富山県立乳児院内)は、赤十字幼児安全法指導員を講師に招いて「子どもにも役立つー知っておきたい救急法ー」と題し、里親里子研修を開催しました。

研修会では、講話の後、バンダナやストッキングを使ったけがの手当てのデモンストレーションが行われ、参加者からは「改めて水の事故に気を付けなければという意識を強く持った」「子どもは目が離せないくらいに好奇心旺盛なので、簡単に対応できる方法を教わって参考になりました」「バンダナを持っていると何かと使い道がある」などの声が聞かれました。

親子参加の研修は和やかな雰囲気の中にも、子どもの事故やけがに対する真剣さが感じ取れました。事務局では、これからも子育てのヒントに繋がるような研修を企画していきたいと思えます。

救急事例検討会



安全で適切な救急医療の提供のために

6月24日(水)、富山赤十字看護専門学校において、救急事例検討会が開催されました。これは、救急救命士と富山赤十字病院が、救急と医療の連携をはかることなどを目的に実施しているものです。

救急救命士43名と、当院からは医師、看護師、その他医療従事者など70名が参加した今回の検討会では、耳鼻いんこう科坪田雅仁医師による「頸部切創の一例」と第2整形外科 酒井清司医師による「転落による大腿骨転子部粉碎骨折の一例」について、検査データや入院後の経過、頸部切創の注意点、ショックの早期認知のための観察項目などが話されました。これは、救急隊にとって、実際に役立つ内容となったようです。また、救急隊からは、当院の地域連携のシステムについて質問があるなど活発な質疑応答が交わされ、互いにとって有意義な研修会となりました。

今後も、当院は救急隊と連携を図り、安全で適切な救急医療の提供に努めていきたいと思えます。